



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

西日本決勝 若木GC (佐賀) 西日本決勝大会・最終日結果のお知らせ

< PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会 西日本決勝 >

- ◇2017年4月2日 (日) ◇天候：晴れ
- ◇佐賀・若木GC (15-17歳の部男子6675ヤードほかカテゴリー別)
- ◇出場152人

<西日本決勝 最終日概況>

I M G A世界ジュニア (7月12~15日、米サンディエゴ) の日本代表14人が決まった。15-17歳の部男子は、河本力 (愛媛・松山聖陵高3年) が通算2オーバー146とし、2年連続1位で代表の座を獲得。代表権のある2位はプレーオフとなり、中澤大樹 (兵庫・滝川第二高2年) が杉原大河 (徳島・生光学園高3年) を破って日本代表入りした。同女子は大林奈央 (兵庫・相生学院高3年) が通算6オーバー150で1位。通算7オーバーの小野里リア (熊本・クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン高熊本分校2年) がプレーオフで山本唯加 (高知・明德義塾高2年) を破って2位となり、日本代表となった。13-14歳の部男子は森下響 (きょう、兵庫・日新中2年) と、昨年 I M G A世界ジュニア代表の松田正史 (熊本・花陵中2年)、同女子は梅津真優美 (山口・マシュー・C・ペリー中2年) と山田萌結 (もゆ、長崎・山里中2年) がそれぞれ初めての代表権を獲得した。

また、15-17歳の部男子1位の河本に男子ツアー「HEIWA PGM CHAMPIONSHIP」出場権、13-14歳の部男子1位の森下に同大会の出場を争う「HEIWA PGM Challenge」出場権がそれぞれに与えられた。

代表の残り14人は東日本決勝大会 (4月22、23日、茨城・美浦GC) で決定する。

I M G A世界ジュニア日本代表は以下の通り。

▽15-17歳の部男子

【1位】河本力 (愛媛・松山聖陵高3年) = 146

【2位】中澤大樹 (兵庫・滝川第二高2年) = 148

▽同女子

【1位】大林奈央 (兵庫・相生学院高3年) = 150

【2位】小野里リア (熊本・クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン高熊本分校2年) = 151

▽13-14歳の部男子

【1位】森下響 (兵庫・日新中2年) = 153

【2位】松田正史 (熊本・花陵中2年) = 155

▽同女子

【1位】梅津真優美 (山口・マシュー・C・ペリー中2年) = 154

【2位】山田萌結 (長崎・山里中2年) = 154

▽11—12歳の部男子

【1位】黒田裕稀（兵庫・豊岡南中1年）＝151

▽同女子

【1位】森愉生（岡山・倉敷西中1年）＝146

▽9—10歳の部男子

【1位】松井琳空海（愛媛・高津小5年）＝159

▽同女子

【1位】荒木七海（熊本・築山小4年）＝163

▽7—8歳の部男子

【1位】星野煌貴（群馬・榛東北小2年）＝162

▽同女子

【1位】岩永杏奈（兵庫・塚口小3年）＝166

※同スコアはプレーオフによる

●西日本決勝 最終日ハイライト1 ◇15—17歳の部男子◇佐賀・若木GC（6675ヤード、パー72）

河本力（愛媛・松山聖陵高3年）が通算2オーバー146で優勝、2年連続1位でIMG A世界ジュニア日本代表を決めた。300ヤードの飛距離を誇るが「狭いコースなので、ドライバーを打ったのは1回」と、インスタートの10番で使った以外、ほとんどのホールを2番アイアンでティーショット。それが「曲がってしまって」とショットに苦しんだが、なんとかこの日4オーバー76に踏ん張った。2アンダー首位発進の前日は「5打差つけて勝つ」と言っていたが、終わってみれば2打差の勝利に「ちょっと恥ずかしい」といいながらも、笑顔が出る。「8番で14メートルのバーディーが入って大丈夫と思ったら、9番で池に入れてダブルボギー。でも、しっかり勝ててよかった」と振り返った。3月に中嶋常幸が主催するトミアカデミーの合宿に畑岡奈紗らと参加。中嶋と一緒にラウンドして「ショットの質は素晴らしいといわれて自信ができました」という。昨年のIMG A世界ジュニアでは50位に終わった。「今年はドライバーの精度が去年より上がっているの、いけそうな気がします。3メートル以内のパットを70%入れられるようになれば、優勝を狙えると思う。練習したい」と自信たっぷり。この優勝で男子ツアー「HEIWA PGM CHAMPIONSHIP」出場権も獲得し、2重の喜びになった。

●西日本決勝 最終日ハイライト2 ◇15—17歳の部女子◇佐賀・若木GC（6184ヤード、パー72）

小野里リア（クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン高熊本分校2年）が、IMG A世界ジュニア代表を決めるプレーオフに勝って、初めての世界代表入りした。通算7オーバー151で、大林奈央（兵庫・相生学院高3年）に次ぐ2位に山本唯加（高知・明德義塾高2年）と並んだ。2位までの日本代表権をかけてプレーオフでは、1ホール目の1番で「左ラフから7番ウッドで50センチぐらいについた。朝も同じようなところで打ったのが練習になりました」と会心のショット。ただ、グリーンを外した山本が4メートルのパーパットを入れたため「ドキドキしながら打ちました」とバーディーパットを沈めた。母の母国である米国でゴルフをやるのが目標だった。まずは代表入りして達成したが「うれしいけど、今日はいらないプレーが多かったのが悔しい面もあります」と話した。次の目標として「ショートゲームをもう少し磨いて、世界ジュニアでいい成績を残したい」と、米国での活躍に意欲を見せた。

●西日本決勝 最終日ハイライト3 ◇15-17歳の部男子◇佐賀・若木GC (6675ヤード、パー72)

中澤大樹(兵庫・滝川第二高2年)がプレーオフで、2014年世界ジュニア13-14歳の部男子優勝の杉原大河(徳島・生光学園高3年)を破り、IMG A世界ジュニア日本代表をつかんだ。通算4オーバー-148の2位で並び、代表権を争うプレーオフに。1ホール目の1番をパーで分けた後の2ホール目の2番で、杉原がティーショットを左OB。3打目も右の林に入れるトラブルになり、中澤は冷静にパーで収めて、ダブルボギーの杉原を下した。最終日は首位に3打差でスタートし「全ホールバーディーを狙う気持ちで行きました」と攻めに徹した。1番で1メートルを入れ、2番でボギーにしたが4番、5番でともに3メートルを入れて連続バーディーと一時は通算2アンダーまで伸ばした。「どんどん行こうと思ひすぎた」と6,7番連続ボギーと、出入りの激しいゴルフになったのが「もったいなかった」と反省する。2012年、14年と決勝大会に進んだが世界ジュニアには行けず、3度目の正直で念願の代表入りした。「行くからには優勝を目指したい。自分はスポーツ選手らしくなくネガティブな性格なので、それをなくす努力をしたい」と真剣な表情で話した。



写真

左上 = 15-17歳男子 河本 力

右上 = 15-17歳女子 小野里リア

左下 = 15-17歳男子 中澤大樹

©IJGA2017